

## 「学習会： 練馬に中央図書館を！ 調布市における中央図書館の役割」の記録

2016年9月24日光が丘図書館 視聴覚室において 練馬区に中央図書館を！ 「調布市における中央図書館の役割」と題する学習会が開催されました。

主催団体のよりよい練馬区の図書館をつくる会、代表関日奈子さんが挨拶に立ち「中央図書館について、もっと勉強して行政に立ち向かっていかなければならない時がきた」と決意を述べました。続いて、共催団体の練馬区職員労働組合図書館分会の小形亮さんは、日本の図書館2015に基づくデータ「東京23区中央図書館、中央図書館機能の図書館比較」を見ながら、練馬区の図書館の置かれた状況を説明しました。光が丘図書館をつくる時、6000m<sup>2</sup>の中央図書館構想もあったんですが、諸事情で現在の3500m<sup>2</sup>の図書館になりました。そんなことから練馬区の中央図書館と謳わずに「中央図書館的機能を果たす」図書館として、開館させました。練馬区に未だ中央図書館がないわけです。これはずっと区民の悲願でした。

- ・光が丘は23館中、床面積で14番目、蔵書数13番目、区の大きさから考えて貧弱である。
- ・人口50万人以上の7区では、床面積でも蔵書数でも5番目になる。下位は板橋、大田のみ。
- ・貸出数だけは、いずれも第1位である。
- ・70万人の区民を抱える12の図書館を統括する図書館として、光が丘は限界にきている。
- ・近年 葛飾区、豊島区、北区、荒川区などが新しいタイプの中央図書館を作っている。

調布市の図書館は先進的で、今も直営で司書を採用し、運営している数少ない自治体です。そこで頑張っている調布市立図書館の小池館長にお話しを伺う機会を設けた次第です。

小池信彦さん（調布市立図書館長）の講演 「調布市における中央図書館の役割」)

1985年私は調布市に司書として採用され図書館に配属されました。調布市の特徴として司書が沢山いることをあげることができます。ただ司書が多いという意味でなく、「あなたは図書館で働いてください」と、司書職として任用された司書がたくさんいるということです。最近都立図書館はまた、司書としての職員採用が始まっていますが、職員の司書採用は非常に少ない状況です。例えば日野では司書で採用されても、図書館だけでなく、又いずれ図書館に戻すという条件で他部署への異動を命じられることもあります。私の場合は、人事交流ということで、政策室にいたこともあります。2008年に副館長、翌年に館長になり、現在に至ります。

調布市の人口は22万人、多摩地域では八王子、町田、府中に続く、上から4番目です。調布市は新宿から京王線で15分、車ですと甲州街道、中央高速道のインターで下ります。調布飛行場と周辺地域を除く、約20km<sup>2</sup>に人が住んでいます。高低差があまりない土地柄で、街中の移動は自転車で済みます。人口はやや増加傾向にあり、若い人、子育て世代の転入が特色です。転入は15000人弱、転出は約14000人なので、一割が入れ替わっていることになります。

蔵書数は約130万冊（地域資料も含め約80万タイトル）です。一般に借出点数はここ2,3年減る傾向にありますが、調布も少し減っていて、約260万点（視聴覚資料込み）、延べ利用者数は約100万人です。図書館は中央図書館と分館10館からなり、計11館、他に20万冊収納可能な資料保存庫があります。今年度の職員は、再任用を含めて64人、うち司書は40人以上、専門嘱託員（非常勤職員）約150人です。職員の半分以上は中央館にいて、分館は職員2名と嘱託員6~7人で運営しています。分館は週1日休み、開館時間は9時~5時です。中央図書館は通年開館を原則とし、月2日休館、朝9時~夜8時半です。開館延長は、非常勤職員が組織的に組み込まれたことで実現しました。分館については、調布はいわゆるベットタウンなので、帰ってきたときに図書館が閉まっているのはどうかとの疑問も投げかけられますが、立地が住宅地にある為商業地域と違い、人の往来が少ないなど、安全管

理上の問題もあり、開館時間延長の要請には応じていません。この件は実はかなり古くから検討されており、市議会の会議録を調べていて、昭和47年に住宅地での図書館の開館時間の延長は難しいと答弁しているのを見て驚きました。図書館をつくる時、こうした面の検討も必要なのだろうと思います。

調布の図書館はS41(1966)年に開館しました。当時多摩で図書館があったのは府中、武蔵野、町田などでしたから、5~6館目になります。それに都立の図書館が3館がありました。市制10周年記念に要望の高かったのは、保育園と図書館でした。当時中央公民館を勉強部屋にしている学生が大勢いましたが、待ちが多くて、勉強部屋がほしいという動機もひとつあったようです。S57(1982)年に10館目の分館を完成して、完了しました。

最初の中央図書館が開館した時は将来本格的な中央図書館が必要と考えられていたようです。現在の中央図書館の開館時、財団管理委託するという構想がありましたが、市民の反対運動も起こり、委託をせず、事実上直営で運営することになりました(学習室の管理委託は実施)。調布の図書館のキャッチフレーズは”買い物かごを下げて図書館へ”ということで、敷居の高くない図書館を目指し、また館数については徒歩約10分、800mに1館、人口2万人に一つ、小学校区に一つの図書館を目指し、実現させました。図書館条例に、”図書館は、本館及び分館をもって構成するものとし”とありますが、コンセプトは”図書館は一つ”です。このコンセプトで本館、分館を分断して民間委託にするとすることがしにくくなりました。

児童サービスを徹底してやろうというのも柱でした。50年前は子どもによい本を提供したいという大きな流れがあり、明日の良き読書人をつくるということや、これからの図書館サービスを背負っていくのは子どもたちであるという認識です。選書、お話し会、読書会、文庫活動支援(今は中止)、学校への支援、学校図書館へのサービスが実際の活動の中身です。調布市の場合、非常勤ですが、学校司書を全校配置しているので、司書を通じて学校へのサービスをします。学校司書は非常勤で週21時間勤務です。学校教育の中で図書館が役割を評価する声が出てきています。先生方にも信頼され、子どもたちの利用も多くなっています。市議会でも、処遇改善が議論されているほどです。

もうひとつの特徴は集会行事活動です。市民に対し、読書の啓発を図り、そこで生まれた学習意欲を支える機能をもたなければならない、という考え方で、公民館的機能的でもあります。例えば読書会をし、そこで教育講座が必要だとなれば、教育講座を行うなどの対応をとりました。平成17年に基本方針を作っています。そこでは、子どもサービスや障害者サービスを徹底してするなどのほか、図書館ボランティアや図書館協議会などの市民参画を進めるという項目もあります。そしてそれらのサービスを遂行するには職員に対する継続的な研修が必要だと述べています。

調布市は過去50年司書職を採用しつづけている数少ない市です。最近でも欠員を埋める程度ですが、10数人採用されています。過去に民間に委託するかどうか検討したことがありました。当時の館長が、司書を雇用しつづけたことで質的担保を、専門職(非常勤)を組織化したことで、量的な需要に対応できるようになったと評価し、条例を改正して直営で運営することにしたのです。行政組織上は教育委員会の中に位置づけられています。館長と6つの係からなっている。最近市長部局や、区長部局に組織変えがあったという話はときどき聞きますが、図書館自体がみんな教育委員会の条例に基づいて作られた図書館ではないでしょうか。

中央図書館って何？（中央館とか筆頭館とかいう場合もある）

- 1) 全11館の中央図書館であり、同時に地域館である。
- 2) 全館の庶務的機能/経理機能/管理機能を持っていること。
- 3) 資料の集中整理（入荷本を貸出できる状態にする。ブックカバー、入力等を施す）
- 4) 選書の調整機能（地域館の選書はせず、全図書館の選書のバランスを考える）
- 5) 廃棄本の調整機能（地域館の廃棄はそれぞれが。全体のバランスを考えて実施）

図書館のチカラって何でしょうか？調布の図書館に委託問題が起きた時、市民が反対運動の呼びかけ人になって動いてくれました。利用者とカウンター越しにそういう話ができる関係があったわけです。図書館を見学された方に、この話をしましたら、次のように書いてくれて、嬉しかったです。

「図書館のチカラは、それを利用する我々ひとりひとりのチカラでもある。そして、時には利用者のチカラが図書館のチカラになることだってあるのだ。」（小金井の雑誌『き・まま』No.6より）

15分休憩の後、小池さん、小形さんに参加者から出された質問にお答えいただきました。

Q 23区には中央図書館のある区とない区があります。中央図書館の有無が必ずしも、その区の図書館サービス活動のよしあしには結びついていないように思われます。

「中央図書館機能を持つ図書館」と「中央図書館」の違いとは？

A（小池さん）名称としての図書館と機能を持つ図書館は本質的な違いはないと思います。中央図書館機能をもっている、その地域の名称を名乗り続ける図書館もあれば、中央を名乗る図書館もあります。名称としての中央図書館がないからといって、機能的な意味で中央図書館がないとはいえないわけです。

Q 選書はどのようにするのか。

A（小池さん）毎日発行される書籍の情報と取次店（日販等）から事前に指定した条件で選んだ本が送られてきますので、そこから各館選び、中央図書館が発注し、納品を受けて、整理します。これが、集中整理という作業です。中央図書館で購入本を全部決めて、地域館に割り振りをするというやり方をするところもあるようですが、調布は地域の事情を知っている分館自身が選書すべきだと思っていますので、集中選書はせず、集中整理を行っています。

Q 望ましい練馬区の図書館像

A（小形さん）練馬区の場合、図書館は12館あり、指定管理館が9館、5社に及び、直営館でもカウンターの業務委託業者が入っていて、運営形態が複雑になっています。全体を管理する機能をもつ図書館が名称はどうであれ必要です。現在の光が丘図書館は中央館的機能を十分に果たせる庶務機能を果たせるスペースも、保存庫もありません。、40人規模のオフィスに70~80人が働いているので、専用の机すらないんです。機能的に限界で、早急に中央図書館が必要です。

Q 調布市での民間委託などの行政からの提案がありましたか。もしないのであれば、何故ですか。

A 先にちょっと触れましたが、市民の中で図書館の利用者が中心になって、図書館の問題は別に勉強した人たちではないんですが、反対の集会を開いたりして、図書館を応援してくれました。

Q 地元区民の利用者との交流は？

A 年に一度、利用者懇談会を開催しています。地区協議会がある地域では図書館もメンバーになっていることがあります。

Q 資料数は子ども向けと一般用に分けているか？

A 子どもと青少年向けの区別はしていません。一般向けの資料とは、別に出しています。

Q 利用者が子どもから大人への比率が多くなっている中で、レファレンスや選書などの担当が対応していけるか。対策は講じているか？

A 図書館にとって子どもサービスは重要な柱です。子ども向け、お話し会、学校図書館の支援などに重点を置いて活動しています。職員は定年があるので高齢者がどんなものを読みたいか把握するのは難しいのではないかと話す職員もいます。

Q 練馬区では図書館は課の扱いで図書館の位置づけが低い。総合計画や個別計画で図書館行政がきちんと位置づけられ、文書化されていない。行政の中で、図書館の重要性をアピールするにはどうすればよいだろうか。

A 図書館は課レベルのところは普通です。

Q 中央図書館には保存機能が必要かと思いますが、調布の図書館では、その点はいかがですか。

A 20万冊の資料を保存する保存庫をもっています。計算上の保管スペース以上に蔵書がある状況で、まとまった資料の一部は段ボールに保管しているものもあります。

Q 集中選書のお話がありましたが、調布では選書はどうやっているのか、それを中央図書館がどう関わっているのか。

A 調布は、各館が選書することが基本です。中央図書館は分野ごとの選定グループを作って、週1回程度の選定会で新刊や、リクエスト、予約の資料の扱いを選定、相談しています。分館は各館の利用状況を踏まえて選定します。中央図書館や他の分館の選定状況を参考にすることもあります。複本数の調整を文学分野の選定会で調整することはあります。

#### その他の感想

・現在の図書館系がどのように出来てきたのか、職員も含め、再認識することが大切だと思いました。（中央図書館的機能をもった図書館であること）

・チラシを見て中央図書館とはどんな図書館なのだろうと思い、参加してみました。そもそもよりよい図書館とはどんな図書館であるかもよくわかっていけませんので、中央図書館のイメージもなかなかつかみきれっていません。これから学ぼうと思います。

閉会の辞として、稲本健一さんが参加者のみなさんに、「是非”よりよいの会”に参加して一緒に中央図書館について考えていきましょう」と呼びかけました。

なお、練馬区議の参加は3名でした。

以上

(司会・進行/記録 小野寿子)

## 東京23区中央図書館、中央図書館機能の図書館比較

(日本の図書館2015 による)

小形 亮 作成

規模順 m<sup>2</sup>

	自治体名	図書館名	床面積 (m <sup>2</sup> )	蔵書冊数 (千冊)	貸出冊数	人口 (千人)	館数
1	江戸川	中央	7500	427	898	675	12
2	足立	中央	6537	787	816	670	15
3	北	中央	6163	411	1110	335	14
4	世田谷	中央	5808	648	1151	868	16
5	葛飾	中央	5078	395	1024	448	12
6	江東	江東	4995	346	651	487	11
7	品川	品川	4668	392	679	369	10
8	中野	中央	4480	507	700	314	8
9	渋谷	中央	4450	289	252	215	10
10	杉並	中央	4397	685	707	543	12
11	港	みなと	3997	238	407	235	6
12	新宿	中央	3951	219	384	324	10
13	台東	中央	3844	375	1122	188	4
<b>14</b>	<b>練馬</b>	<b>光が丘</b>	<b>3576</b>	<b>311</b>	<b>1299</b>	<b>711</b>	<b>12</b>
15	墨田	ひきふね	3393	281	620	255	4
16	中央	京橋	3059	341	398	133	3
17	目黒	八雲中央	3020	408	925	267	8
18	豊島	中央	3000	252	900	272	7
19	板橋	中央	2907	215	435	540	11
20	文京	真砂中央	2893	188	597	204	11
21	荒川	南千住	2686	270	705	208	5
22	千代田	千代田	2616	171	318	54	5
23	大田	大田	2150	254	505	701	13

光が丘は23館中、床面積で14番目 蔵書数で13番目。

人口50万人以上の7区では、床面積でも蔵書数でも5番目になる。

貸出数だけは、いずれも第1位である。